

「つながり

から生まれる

新しい価値

外部環境の激変に瞬時に対応し、そのプロセスのなかで、これまでにはない価値を生み出す――。

「変化対応力」は、企業が生き残るために最も不可欠な能力といっても、決して言い過ぎではないだろう。しかし、経営資源の乏しい中小企業にとって、自力での変化対応には限りがある。その限界突破の鍵が、

「つながり」であり「連携」なのである。新たな可能性を見いだすことに成功した事例を紐解きながら、これからの闘い方を考えたい。

取材・文 長野修



ながの・おさむ 1960年生まれ。新聞社編集プロダクションを経て、96年よりフリーライター。2005年、小説「朱色の命」で日本海文学賞を受賞

Interview

「異文化の衝突」から、革新は生まれる

大企業で働く社員を一定期間、ベンチャー企業で武者修行させる「企業間レンタル移籍」の事業会社を起した原田未来社長は、これまで、異文化のぶつかり合いのなかから生まれる新しい自己発見の現場を何度も目にしてきたという。ローンディールが手掛ける人材交流の取り組みから、「つながり」が持つ経営の可能性を考察する。



株式会社ローンディール 代表取締役 原田未来

スキルは通用するが マインドセットは通用しない

――今回の特集のテーマは、「企業間連携」です。御社の「企業間レンタル移籍」は、まさに大企業とベンチャー企業の、人的連携によって、互いの

弱みを補い強みを強化するビジネスモデルです。まずは、このビジネスモデルの概要について教えてください。

原田 “人材育成”をしたい大企業と、“事業強化”をしたいベンチャー企業をマッチングさせるビジネスです。大企業から育成したい人

材をベンチャー企業に向向または研修派遣という形で移籍させます。二〇一五(平成27)年にサービスを開始して以来、導入してくださった大企業は、トヨタ自動車、経済産業省、NTT西日本など、四七社。レンタル移籍者は一三〇名を超えて

います。――移籍させる側、受け入れる側、双方の目的は何ですか。

原田 まず移籍させる大企業に、とっての目的は、人材育成です。自社では得難い創造と変革に必要なマインドセット(思考様式)を、ベン

Report 01 ノーリツプレジジョン株式会社 >>> P.22

Report 02 株式会社 葛屋家電エンタープライズ >>> P.24

Report 03 株式会社 油津応援団 >>> P.26